

平成29年度第1回小牧市地域公共交通会議会議録

1 開催日時 平成29年5月29日（月）午後2時00分から

2 開催場所 小牧市役所東庁舎大会議室

3 出席者

(1) 小牧市地域公共交通会議委員

名古屋鉄道(株) 西部支配人

水野 泰
(福富 正一 代理)

名鉄バス(株) 運輸部長

近藤 博之

あおい交通(株) 代表取締役

松浦 秀則

愛知県タクシー協会 専務理事

山田 透

(久留宮 優司 代理)

愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事

伊藤 匠二

小牧市区長会 連合会長

公共交通利用促進協議会 会長

小柳 松夫

小牧市老人クラブ連合会 副会長

平手 満治

小牧市女性の会 副会長

酒井 美代子

生涯学習ボランティア・こまき 代表

森 勝昭

中部大学工学部都市建設工学科 教授

磯部 友彦

中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官

岡田 英雄

愛知県 振興部 交通対策課主幹

桑原 良隆

(塚崎 有里 代理)

愛知県小牧警察署 交通課長

船坂 透

(田尻 義勝 代理)

犬山市 市民部 地域安全課長

百武 俊一

豊山町 産業建設部 地域振興課長

高桑 悟

小牧市 健康福祉部長

廣畑 英治

小牧市 都市建設部長 (建設担当)

平岡 健一

小牧市 都市建設部長 (都市整備担当)

渡辺 学

(2) 事務局

小牧市 都市建設部次長 (都市整備担当)

牧野 治

小牧市 都市建設部 都市政策課主幹

河村 昌二

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係長

松浦 善行

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係主事

亀谷 俊太

小牧市 都市建設部 都市政策課交通政策係主事補	上 條 稔 貴
小牧市 都市建設部 都市政策課計画係長	大 澤 正 人
株式会社国際開発コンサルタント名古屋支店	牧 田 博 之
株式会社国際開発コンサルタント名古屋支店	加 藤 洋 司
株式会社国際開発コンサルタント名古屋支店	渡 辺 一 真
株式会社中部速記センター	原 口 千 秋

(3) 傍聴者

2名

4 議題

- (1) 平成 28 年度事業報告について
- (2) 平成 28 年度歳入歳出決算について
- (3) 小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について
 - ・計画の目標について
 - ・目標を達成するために行う事業について

5 会議資料

資料 1-1	平成 28 年度事業報告
資料 1-2	平成 28 年度歳入歳出決算
資料 1-3	監査結果報告
資料 2	IV 計画の目標 (案) VI 目標を達成するために行う事業・実施主体 (案)
参考資料	小牧市地域公共交通会議委員名簿

6 議事内容

【事務局】(亀谷主事)

定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。ただいまから平成 29 年度第 1 回小牧市地域公共交通会議を開催させていただきます。

本日、議事録を速やかに作成するため速記を入れさせていただいており、お手元の机の近くにマイク等が配置してありますが、ご了承いただきますようお願いいたします。

会議の開催に先立ち、事務局を代表しまして都市建設部都市整備担当次長の牧野よりご挨拶を申し上げます。

【事務局】(牧野次長)

改めまして、皆さん、こんにちは。

本日は、大変ご多忙の折、本会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、現在、昨年度から 2 カ年をかけまして、地域にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにするマスタープランとして「小牧市地域公共交通網形成計画」の策定を進めているところでござい

ます。本日は、当計画における将来像及び基本方針の達成度を検証するため、各基本方針に対応した目標及び評価指標を設定するとともに、目標を達成するために実施する各種事業に関してご協議をいただきたいと考えております。また、本会議の平成28年度事業報告及び決算につきましても、あわせてご報告させていただきたいと思っております。

本日の会議は、小牧市地域公共交通網形成計画の策定に当たり大変重要な内容となっておりますので、委員の皆さんにはよろしく願いいたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

【事務局】（亀谷主事）

なお、本日の出席委員は18名であります。従いまして、委員総数22名の過半数に達しておりますので、小牧市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定により本会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

それでは、まず本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の次第、資料1-1として「平成28年度事業報告」、資料1-2として「平成28年度歳入歳出決算」、資料1-3として「監査結果報告」、資料2として「VI 計画の目標（案）」及び「VII 目標を達成するために行う事業・実施主体（案）」、参考資料としまして「小牧市地域公共交通会議委員名簿」でございます。

また、資料番号はございませんが、国土交通省中部運輸局発行のパンフレット「活発で良い議論ができる会議のために。」を事前にお配りさせていただいております。

これらの資料につきまして、本日お持ちでない方や不足、乱丁等ございましたら、事務局までお知らせください。

よろしいでしょうか。

ご確認ありがとうございます。

続きまして、前回の会議以降において委員7名の交代がございましたので、お名前を読み上げ、ご紹介にかえさせていただきます。

愛知県タクシー協会専務理事であります山田透様。

小牧市区長会連合副会長であります平川克治様。

愛知運輸支局首席運輸企画専門官であります岡田英雄様。

愛知県尾張建設事務所維持管理課長であります岩田尚也様。

犬山市市民部地域安全課長であります百武俊一様。

豊山町産業建設部地域振興課長であります高桑悟様。

小牧市健康福祉部長であります廣畑英治様でございます。

委員交代後の名簿につきましては、参考資料「小牧市地域公共交通会議委員名簿」をご確認ください。

また、本日は、名古屋鉄道株式会社西部支配人の水野委員にかわり西部支配人室係長であります福富様に、愛知県タクシー協会専務理事の山田委員にかわり名鉄西部交通株式会社営業企画部長であります久留宮様に、愛知県振興部交通対策課主幹の桑原委員にかわり交通対策課主任であります塚崎様に、愛知県小牧警察署交通課長の船坂委員にかわりまして規制担当係長であります田尻様にそれぞれご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

それでは、会議を始めるに当たりまして、磯部会長よりご挨拶をいただきます。磯部会長、よろしく願いいたします。

【磯部会長】

会長を務めております中部大学の磯部でございます。

暑い中、集まっていただきましてありがとうございます。

この小牧という名前って、交通関係ですごい名前だなと思っているところです。飛行場がありますし、高速道路があって、東名と名神の切り替えが小牧ですから、必ず東名、名神は小牧が起点になっていると書かれます。もちろん鉄道、小牧線がございますし、車のナンバープレートも小牧だということで、小牧抜きでは何も語れないぐらいの重要なところだなとつくづく思っているところがございます。

それでは、小牧市内はどうかという話になってくるんですね。果たして小牧市内がすごく交通の便のいいところで、この地域の中心性のあるところかということ、ちょっとそれは違うかなという話になってくるんですね。そういうことがあって、名前に恥じないように交通をしっかりとやっていくにはどうしたらいいのかなというのでこの会議ができていると思っております。

と言いながら、小牧市内の交通の充実もありますし、小牧市単独では都市は成り立ちませんので、近くにごきます大都市名古屋との関係とか、あとは隣接市町との関係を充実させていって、やっとなり市民生活とか産業に役に立つ交通になると思っております。そういう面で、小牧市の中のことも大事ですし、外との繋がりも大事だという観点で、いろいろとまた議論していきたいなと思っております。

よろしく願いいたします。

【事務局】（亀谷主事）

磯部会長、ありがとうございました。

今後の議事の進行につきましては磯部会長にお願いしたいと思っております。磯部会長、よろしく願いいたします。

【磯部会長】

本会議は公開が原則となっておりますので、本日は2名の方から会議傍聴の申し出がございました。承認いたしましたので、ご報告申し上げます。

それでは、議事を進行してまいります。

まず、本日の次第には記載されておりませんが、国土交通省中部運輸局から発行されています「活発で良い議論ができる会議のために。」というパンフレットが、本日皆様の机の上に配付されております。この経緯につきまして、中部運輸局の岡田委員にご説明をお願いいたします。

【岡田委員】

愛知運輸支局の企画調整担当に4月1日から参りました岡田と申します。よろしく申し上げます。

私から、「活発で良い議論ができる会議のために」というリーフレットについて説明させていただきたいと思っております。着座にて申し上げます。

実は、これは前年度の第1回の会議でも配付させていただき、説明させていただいたところであ

ります。新しく委員になられた方もお見えになるということで、改めて再度、簡単に説明させていただきたいと思います。

作った背景としましては、平成27年度の1年をかけて中部運輸局において作ったんですけど、実際に中部運輸局管内は、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県、福井県とあるんですけど、その9割に相当する市町でこのような公共交通会議が開かれております。しかしながら、小牧市さんはどうだという話ではないんですけど、実質的な議論が行われなまま協議会が終わってしまうことが散見されることもあって、特に住民の方に参画していただくために何か分かりやすいものがないかということ踏まえて策定したものであります。

前置きはこれぐらいにいたしまして、1枚めくっていただきますと、1ページには地域公共交通が大ピンチですよというような、少子高齢化、人口減少、モータリゼーションという背景もあるんですけど、いろいろと考えないと地域公共交通がなくなってしまうようなことまで、危機的なところも出てきているということで、そのピンチという状況を書いたものでございます。

2ページには、どうすればいいかということになりますと、やっぱり地域の足は地域で考えましょう、守りましょうと。作っていくためには住民、交通事業者、行政など関係者がみんな一致団結してやっていく必要がある、それがこの公共交通会議の場でありますよということを書いております。

3ページに、ではどうすれば議論に参加できるのかということで、それぞれ会議の参加者とその役割を絵柄を用いて簡略的に書いているところであります。住民代表の左上のところを見ますと、日ごろから利用して困っているようなことを今度何かあったときに言ってみようという、それぐらいの観点でいいんじゃないかというような、簡略的に書いております。

では、今日この会議ですぐに発言できるかということもあります。

5ページへいきまして、次回の地域公共交通会議ではというタイトルでありますように、小牧市さんは事前に資料を送付してきていただいておりますので、資料に目を通していただいて、日ごろ疑問に思うことを率直に話す、意見を述べるのがこの公共交通会議をより良くしていくことに繋がるんだということを書いております。

また一読して、次回に臨んでいただければ幸いです。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

【磯部会長】

ありがとうございました。

この件につきましては議決とかいうことはございません。もし質問がありましたらお受けしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。いろんな立場から参加していただいておりますので、その立場を尊重して会議の中で扱っていききたいということでございます。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

それでは、次第の中に入っていきたいと思っております。次第2の議題に移りたいと思っております。

(1)平成28年度事業報告について、(2)平成28年度歳入歳出決算についてでございます。これらにつきましては関連がございますので、事務局より一括して説明をお願いいたします。

【事務局】(松浦係長)

それでは、議題「(1)平成28年度事業報告について」「(2)平成28年度歳入歳出決算につ

いて」一括してご説明申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の資料1-1「平成28年度事業報告」をお願いいたします。

まず初めに、(1)小牧市地域公共交通会議の開催でございますが、平成28年4月に当会議体でございます小牧市地域公共交通会議を設立し、昨年度は計5回開催させていただきました。

ここからは、地域公共交通網形成計画の策定に向けて行った事業について簡単にご説明させていただきます。

(2)地域特性と公共交通の現状整理でございますが、7月から10月にかけて上位・関連計画を整理するとともに、小牧市地域公共交通網形成計画の位置づけの整理及び平成22年度に策定した小牧市総合交通計画に掲げる施策の進捗状況の確認等をいたしました。

次に、(3)各種ニーズの把握でございます。8月から11月にかけて市民アンケート調査、バス利用者アンケート調査、企業・教育機関アンケート調査、交通事業者ヒアリング、公共交通地域懇談会等を実施いたしました。

次に、(4)地域公共交通の課題整理でございます。8月から12月にかけて現状整理や各種ニーズ調査結果などを踏まえ、まちづくりや観光と連携した持続可能な公共交通ネットワーク形成を行う上での課題を整理いたしました。

次に、(5)基本方針の策定でございます。計画の基本方針を12月から2月にかけて策定いたしました。各種調査の結果を踏まえ、小牧市地域公共交通網形成計画で定める基本的な方針につきましては、小牧市総合交通計画における基本理念・将来像を継承しながら整理し、新たな課題にも対応していくこととしました。

最後に、裏面になりますが、各会議ごとの内容について表にまとめましたので、参考にご覧いただければと思います。

続きまして、資料1-2「平成28年度歳入歳出決算」をお願いいたします。

まず、上段の歳入についてでございます。科目「負担金」予算額2,600万円に対し、決算額2,105万6,713円でございます。こちらは地域公共交通会議運営負担金といたしまして、小牧市からの負担金でございます。

次に、科目「国庫補助金」予算額0円に対し、決算額360万円でございます。こちらは地域公共交通確保維持改善事業補助金といたしまして、国からの補助金でございます。

次に、科目「諸収入」予算額1,000円に対し、決算額171円でございます。

歳入合計といたしましては、予算額2,600万1,000円に対し、決算額2,465万6,884円でございます。

続きまして、下段の歳出でございます。科目「会議費」予算額60万9,000円に対し、決算額46万4,344円でございます。

次に、科目「事業費」予算額2,539万1,000円に対し、決算額2,419万2,540円でございます。こちらは、平成28年度小牧市地域公共交通網形成計画策定支援業務委託料であり、内容といたしましては、報告(1)で説明いたしました事業を国際開発コンサルタンツ名古屋支店に委託をして実施したものでございます。

次に、科目「予備費」予算額1,000円に対し、決算額0円でございます。

歳出合計といたしましては、予算額2,600万1,000円に対し、決算額2,465万6,884円となっており、歳入合計、歳出合計の差し引き額は0円となっております。

以上、議題「(1)平成28年度事業報告について」「(2)平成28年度歳入歳出決算について」

の説明とさせていただきます。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

【磯部会長】

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がございました。

ここで、平成28年度の歳入歳出決算につきましては監査委員のお二人に監査をしていただいておりますので、監査結果報告もお願いしたいと思っております。監査委員を代表して、平手委員からご報告をお願いいたします。

【平手委員】

それでは、監査の結果を報告いたします。

平成29年5月16日、小牧市役所において歳入歳出決算の監査を行いましたので、監査委員を代表いたしまして、その監査結果を報告申し上げます。

平成28年度小牧市地域公共交通会議歳入歳出状況を審査したところ、諸帳簿並びに証拠書類等は、いずれも適正かつ正確なものと認めます。

以上、監査結果の報告を申し上げます。

【磯部会長】

ありがとうございました。

ただいま、資料1-1で昨年度の事業報告、いろんな調査をやったということが報告を受けまして、それと関連しまして、そのための予算として資料1-2のようなお金を使ってやられたということでございます。監査報告も受けたということでございます。

この件につきまして、皆様からご意見、ご質問ございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

この会議のためのお金と、主に計画策定のためのいろんな業務に使ったということでございまして、その状況がまた後で出てくるわけでございます。

よろしければ議決に入りたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、議題「(1)平成28年度事業報告について」、「(2)平成28年度歳入歳出決算について」は、原案のとおり承認することでご異議ありませんでしょうか。

【全委員】

異議なし

【磯部会長】

ありがとうございます。異議なしという声を受けましたので、議題(1)と(2)につきましては承認されました。

続きまして、議題「(3)小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について、計画の目標について、計画を達成するために行う事業について」であります。この件について事務局より説明を求めます。

【事務局】（松浦係長）

議題（３）の説明に先立ちまして、本日の説明方法についてご説明申し上げます。

小牧市地域公共交通網形成計画の策定につきましては、これを支援する業務について委託をしているところであり、当該委託の仕様書に基づき、受託者であります株式会社国際開発コンサルタンツ名古屋支店よりご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】（国際開発コンサルタンツ 加藤）

それでは、議題「（３）小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について、計画の目標について、目標を達成するために行う事業について」ご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、お手元の資料２をお願いいたします。

こちらは、昨年度素案としてご審議いただきました公共交通の課題、基本理念、将来像及び基本方針の内容を踏まえた計画の目標（案）と目標を達成するために行う事業・実施主体（案）でございます。

まず、１０８ページから１１１ページのⅥ 計画の目標（案）について、ご説明申し上げます。

１０８ページの上段「１．計画の区域と計画期間」でございます。

（１）計画の区域としまして、本計画の計画区域は小牧市全域としますが、市民の移動実態等を視野に入れ、区域外についても当該自治体等と連携して事業を行うものとします。

（２）計画期間といたしまして、小牧市都市計画マスタープランや小牧市立地適正化計画との整合性を図りながら、おおむね２０年後の都市の姿を展望しつつ、公共交通に対する社会情勢の変化などにも対応するため、５年後である平成３４年度を目標年次とし、計画期間は５年間（平成３０年から３４年度）といたします。

１０８ページの下段、「２．計画の目標」でございます。

小牧市地域公共交通網形成計画における将来像及び基本方針の達成度を検証するため、各基本方針に対応した目標及び評価指標を設定します。なお、評価指標の目標値については、今後検討する実施事業の内容を踏まえて設定するため、次回の会議で審議いただく予定であり、米印を記載させていただきます。

基本方針１―①に対応した目標１―１としまして「拠点相互の公共交通利用者の増加」を掲げ、対応する評価指標は「中心拠点及び地域拠点の交通結節点相互をバスで移動する利用者数」といたします。

基本方針１―②に対応した目標１―２として「中心拠点における鉄道・バス乗車人数の増加」を掲げ、対応する評価指標は「中心拠点の交通結節点における鉄道・バスの日平均乗車人数」といたします。

１０９ページをお願いいたします。

基本方針１―③に対応した目標１―３として「地域拠点における鉄道・バス乗車人数の増加」を掲げ、対応する評価指標は「地域拠点の交通結節点における鉄道・バスの日平均乗車人数」といたします。

基本方針２―①に対応した目標２―１―１として「公共交通の利用頻度の増加」を掲げ、対応する評価指標は「鉄道、路線バス、こまき巡回バス、タクシーを月に１回以上利用する人の割合」といたします。また、目標２―１―２として「通勤・通学目的での公共交通利用者割合の増加」を掲

げ、対応する評価指標は「鉄道、路線バス、こまき巡回バスを通勤または通学目的で利用する人の割合」といたします。

基本方針2—②に対応した目標2—2として「市補助路線及びこまき巡回バスの収支率の改善」を掲げ、対応する評価指標は「市補助路線及びこまき巡回バスの収支率」といたします。

110ページをお願いいたします。

基本方針3—①に対応した目標3—1として「公共交通徒歩圏域人口カバー率の維持」を掲げ、対応する評価指標は「公共交通徒歩圏域人口カバー率」といたします。

基本方針3—②に対応した目標3—2として「高齢者や障がい者等の公共交通に対する不満足度の改善」を掲げ、対応する評価指標は「高齢者及び障がい者等の公共交通に対する不満足度」といたします。

基本方針4—①に対応した目標4—1—1として「市外への乗り継ぎ利用者のバスに対する不満足度の改善」を掲げ、対応する評価指標は「鉄道または高速バスへ乗り継ぐバス利用者のバスに対する不満足度」といたします。また、目標4—1—2として「市内の各拠点から名古屋への移動時間の短縮」を掲げ、対応する評価指標は「市内の各拠点から名古屋駅への移動時間」といたします。

基本方針4—②に対応した目標4—2として「観光施設の最寄り駅・最寄りバス停の乗車人数の増加」を掲げ、対応する評価指標は「主要観光施設の最寄り駅・最寄りバス停の日平均乗車人数」といたします。

なお、各成果指標の算出根拠について111ページにまとめてございますので、あわせてご確認ください。

次に、112ページから145ページの「Ⅶ 目標を達成するために行う事業・実施主体（案）」について、ご説明申し上げます。

112ページの「1. 目標を達成するために行う事業」でございます。

将来像及び基本方針の実現に向けて掲げた目標を達成するために実施する各種事業を、〈施策1〉公共交通ネットワークの構築、〈施策2〉交通結節機能の強化、〈施策3〉公共交通の利用促進、〈施策4〉持続可能な交通サービスの提供の四つの施策でまとめ、それぞれ基本的な考え方、実施する事業について整理をいたしております。

113ページをお願いいたします。（1）〈施策1〉公共交通ネットワークの構築でございます。

①基本的な考え方としまして、公共交通ネットワークの構築に当たり、公共交通を分類し、その分類ごとに交通サービス確保の考え方を整理し、その考え方にに基づき公共交通ネットワークを構築します。

1) 公共交通の役割に応じた分類では、小牧市内及びその周辺を運行する公共交通を、路線の役割に応じ「南北鉄道軸」、「東西公共交通軸（バス）」、「都市間連絡軸（バス）」、「生活交通軸（バス）」、「都市間連絡軸（鉄道）」、「都市間連絡軸（高速バス）」、「隣接市町コミュニティバス」、「タクシー」の8種類に分類いたします。

南北鉄道軸は、公共交通の軸として重要な鉄道軸であり、小牧駅周辺の中心拠点と味岡駅周辺の地域拠点等の拠点間連携や、名古屋・犬山方向への都市間移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

東西公共交通軸（バス）は、東西市街地の連携強化に資するバス軸であり、小牧駅周辺の中心拠点と桃花台センター地区及び藤島地区の地域拠点等の拠点間連携や、春日井・岩倉方向の都市間移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

都市間連絡軸（バス）は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（鉄道）と一体となって、市内の拠点から結びつきの強い都市を結ぶ広域移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

生活交通軸（バス）は、地域の特性に応じて各居住地と市内の拠点を結び、市内の拠点へのアクセス利便性向上と中心拠点内のモビリティの向上を図る役割を担います。

都市間連絡軸（鉄道）は、東西公共交通軸（バス）や都市間連絡軸（バス）と接続し、広域移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

都市間連絡軸（高速バス）は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）と一体となって、市内の拠点から結びつきの強い都市を結び、広域移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

隣接市町コミュニティバスは、市内を運行する公共交通と連携し、本市と隣接市町間の移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

タクシーは、個別の移動ニーズへの柔軟な対応を図るとともに、鉄道やバス路線が運行していない地域や時間帯における移動ニーズへの対応を図る役割を担います。

なお、114ページに公共交通体系のイメージ図を示しておりますので、あわせてご確認をお願いします。

115ページをお願いいたします。

2) 交通サービス確保の考え方では、小牧市内を運行する公共交通について、路線の役割に応じた交通サービス確保の考え方を整理するとともに、該当路線を示しております。

南北鉄道軸は、小牧市の南北軸を形成するため、都市間を連絡する交通需要に応じたサービス水準を確保するものとし、名鉄小牧線が該当します。

東西公共交通軸（バス）は、小牧市の東西軸を形成するとともに、沿線地域のニーズを基本としつつ、潜在需要の喚起も見据えたサービス水準を確保する。特に、中心拠点と地域拠点を結ぶ区間については、平日1日30本以上の運行頻度を確保する。通勤通学及び帰宅時間帯における乗客集中に対応できるサービス水準を確保するとともに、通勤通学での利用を考慮した運行時間帯を設定する。交通結節点を中心に、ほかの路線との乗り継ぎ利便性の確保に留意したダイヤ設定とするものとし、名鉄バス路線バスの間内・岩倉線、岩倉線、桃花台線、春日井・桃花台線、桃山線、あおい交通路線バスのピーチバス、桃花台バスが該当します。

都市間連絡軸（バス）は、沿線地域の広域移動ニーズに応じたサービス水準を確保する。通勤通学及び帰宅時間帯における乗客集中に対応できるサービス水準を確保するとともに、通勤通学での利用を考慮した運行時間帯を設定する。交通結節点を中心に、ほかの路線との乗り継ぎ利便性の確保に留意したダイヤ設定とするものとし、名鉄バス路線バスの小牧・勝川線、春日井市内線が該当します。

なお、東西公共交通軸（バス）と都市間連絡軸（バス）については、115ページの下表に示すとおり、複数路線を一体的な路線として扱うものとします。

次に、116ページをお願いいたします。

生活交通軸（バス）は、こまき巡回バスが該当しますが、こまき巡回バスの全路線に共通する交通サービス確保の考え方として、南北鉄道軸や東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス・高速バス）との乗り継ぎ利便性の確保に留意したダイヤ設定とする。市民の買い物や通院での利用を考慮した運行時間帯を設定する。観光利用や商業施設利用を考慮するとともに、道路の混雑状況に配慮したダイヤを設定するものといたします。

こまき巡回バスの幹線系路線の交通サービス確保の考え方として、人口集中地区を通り各居住地から市内の拠点や公共施設へのアクセス利便性の確保や、中心拠点におけるモビリティの向上を支援することができるサービス水準とする。沿線地域のニーズに応じ、平日1日10本以上の運行頻度を確保する。東西公共交通軸（バス）や都市間連絡軸（バス）との競合の回避に留意したルート及びダイヤ設定とするものといたします。

こまき巡回バスの支線系路線の交通サービス確保の考え方として、交通空白地区及び交通不便地区をきめ細かく通り、各居住地から市内の拠点へのアクセス利便性の確保に留意したサービス水準とする。沿線地域のニーズに応じた運行頻度を確保するものとします。

都市間連絡軸（高速バス）は、近距離高速バスと高速バスが該当しますが、近距離高速バスの名古屋・桃花台線の交通サービス確保の考え方として、名古屋方向への移動ニーズに応じたサービス水準を確保する。通勤通学及び帰宅時間帯における乗客集中に対応できるサービス水準を確保するとともに、通勤通学での利用を考慮した運行時間帯を設定するものとします。

近距離高速バスの中央道桃花台バス停発着路線と高速バスの中央道桃花台バス停発着路線の交通サービス確保の考え方として、本市内から名古屋方面や岐阜県等の県外への移動ニーズや沿線地域の移動ニーズに応じたサービス水準を確保するものとします。

隣接市町コミュニティバスでは、隣接市町が交通需要に応じたサービスを確保する。小牧市内と隣接市町間の移動ニーズを考慮したルート及びダイヤ設定とするものとし、犬山市コミュニティバスの楽田西部線、とよやまタウンバスの北ルートが該当いたします。

タクシーは、個別の移動ニーズに柔軟に対応するとともに、鉄道やバス路線が運行していない地域や時間帯における移動ニーズに応じた交通サービスを確保するものとし、あおい交通株式会社、小牧タクシー、名鉄西部交通が該当いたします。

117ページをお願いいたします。

②実施する事業としまして、路線の役割や交通サービス確保の考え方を踏まえ、基本的な考え方に基づき、〈施策1〉公共交通ネットワークの構築に向けて取り組む事業を挙げます。

事業1-1 路線の役割や交通サービス確保の考え方に基づく運行の実施は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）、都市間連絡軸（高速バス）に該当する全路線について、多様な公共交通のニーズに対応するため、路線の役割や交通サービス確保の考え方に基づくサービス水準での運行を実施するものでございます。

事業1-2 こまき巡回バスの平日用、土日祝日用ダイヤの設定は、生活交通軸（バス）に該当する全路線について、定時性確保のため、道路の混雑状況に配慮した平日用、土日祝日用ダイヤを設定するものでございます。

事業1-3 各鉄道駅へのアクセス利便性の向上は、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）に該当する路線のうち、鉄道駅へ乗り入れている路線について、広域移動ニーズに対応するため、鉄道駅へのアクセス利便性の向上に向けたルートの見直しや鉄道との乗り継ぎに考慮したダイヤを設定するものでございます。

事業1-4 隣接市町コミュニティバスとの連携した運行は、東西公共交通軸（バス）、生活交通軸（バス）、隣接市町コミュニティバスに該当する全路線について、小牧市内と隣接市町間の移動ニーズに対応するため、路線バスやこまき巡回バスと隣接市町コミュニティバスが連携し合うルートやダイヤを設定するものでございます。

事業1-5 名鉄小牧線の利便性向上は、南北鉄道軸について、拠点間連携や名古屋・犬山方向へ

の都市間移動ニーズに対応するため、名鉄小牧線について全線複線化、小牧駅以北の増便、高架化事業の推進等の検討及び平安通駅以南延伸の働きかけを継続的に実施するものでございます。

119ページをお願いいたします。(2)〈施策2〉交通結節機能の強化でございます。

①基本的な考え方としましては、小牧市都市計画マスタープランにおいて位置づけている中心拠点（小牧駅周辺から市役所・小牧山周辺の一帯）及び地域拠点（味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区）を基幹とした公共交通ネットワークの構築により公共交通相互の連携を図るため、各拠点内の主要駅及び主要バス停を交通結節点と設定し、交通結節機能の強化を図ります。

1) 交通結節点の設定では、枠内に示すとおり、各拠点内の主要駅及び主要バス停を交通結節点と定めます。中心拠点では小牧駅、小牧市役所、小牧市民病院、地域拠点（味岡駅周辺）では味岡駅、地域拠点（桃花台センター地区）では桃花台センター、中央道桃花台、地域拠点（藤島地区）では藤島をそれぞれ交通結節点と定めます。

120ページをお願いいたします。

②実施する事業として、交通結節点において、基本的な考え方に基づき〈施策2〉交通結節機能の強化に向けて取り組む事業を挙げております。

事業2-1 小牧市民病院、桃花台センター及び中央道桃花台バス停前ロータリーのバス停の集約化は、乗り継ぎをより円滑にするため、小牧市民病院、桃花台センター、中央道桃花台バス停前ロータリーについて、交通結節点として乗り入れ路線のバス停位置及びルートを変更し、集約化するものでございます。

事業2-2 交通結節点での乗り継ぎを考慮したダイヤ設定は、小牧駅、小牧市役所、小牧市民病院、味岡駅、桃花台センター、藤島地区に乗り入れている路線のうち、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）、都市間連絡軸（高速バス）に該当する全路線について、乗り継ぎをより円滑にするため、各交通結節点において、路線間の乗り継ぎに考慮したダイヤを設定するものでございます。

事業2-3 交通結節点での待合環境の充実は、乗り継ぎの負担を減らすため、各交通結節点において、最寄りの商業施設や公共施設との連携及び上屋やベンチ等の整備によりバスやタクシーの待合環境の充実を図るものでございます。

121ページをお願いいたします。

事業2-4 交通結節点での乗り継ぎに関する不安の解消は、乗り継ぎの負担を減らすため、各交通結節点において乗り継ぎ案内を掲載した総合案内板の設置、乗り継ぎ情報の提供、タクシー乗り場案内板の設置、タクシーの配車依頼先の情報提供等を実施するものでございます。

122ページをお願いいたします。(3)〈施策3〉公共交通の利用促進でございます。

①基本的な考え方として、公共交通をより利用してもらうため、利用促進策について情報提供の拡充、利用者の拡大、利便性の向上、観光との連携強化の四つの視点で整理し、それぞれの視点に基づき事業を実施いたします。

②実施する事業につきまして、1) 情報提供の拡充を図る事業として、公共交通利用者にとって、よりわかりやすく情報の得やすい公共交通を目指すため、取り組む事業を挙げております。

事業3-1 公共交通マップや時刻表による情報提供は、よりわかりやすい情報を提供するため、情報の種類を充実させるものであり、公共交通マップの見直し等が挙げられます。

123ページをお願いいたします。

事業3-2 多様なツールによる情報提供は、利用者が情報をより得やすくするため、多様なツ

ルにより情報を提供するものであり、バスロケーションシステムの導入検討等が挙げられます。

124ページをお願いいたします。

2) 利用者の拡大を図る事業として、公共交通の新規利用者の開拓や、市民の公共交通を支える意識を醸成し、身近な公共交通を目指すため、取り組む事業を挙げております。

事業3-3 モビリティ・マネジメントは、普段公共交通を利用していない方に利用してもらうため、ふれあう機会を作るものであり、特定地域の住民を対象としたバスの乗り方教室の継続的開催等が挙げられます。

事業3-4 地域や学校との連携は、公共交通に親しみをってもらうため、地域や学校と連携した取り組みを実施するものであり、バス車内における園児の絵画展の開催等が挙げられます。

事業3-5 交通事業者との連携は、公共交通に親しみをってもらうため、交通事業者と連携しPRを実施するものであり、イベントでの車両展示等の啓発活動の実施等が挙げられます。

事業3-6 未利用者へのPRは、移動方法の一つとして検討してもらうため、公共交通を知ってもらう機会を作るものであり、市内転入者への公共交通マップや路線別時刻表の配布等が挙げられます。

126ページをお願いいたします。

3) 利便性の向上を図る事業として、全ての利用者にとって使いやすい公共交通を目指すため、取り組む事業を挙げております。

事業3-7 鉄道駅のバリアフリー化は、小牧口駅、田県神社前駅において、高齢者や障がい者等の移動制約者にとっても利用しやすい公共交通とするため対象駅についてバリアフリー化を実施するものであり、駅舎内施設のバリアフリー整備を実施が挙げられます。

事業3-8 駅前広場及び自転車等駐車場の整備は、市内各鉄道駅において、より使いやすい鉄道駅とするため、駅前広場、駐車場、自転車等駐車場等の環境を整備するものであり、小牧口駅前広場、自転車等駐車場の整備等が挙げられます。

事業3-9 交通系ICカード利用環境の整備は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）、都市間連絡軸（高速バス）に該当する全路線において、利便性向上のため、ほかの公共交通機関と互換性のあるICカードの利用環境を整備するものであり、市内を運行する鉄道及びバス路線の全路線における交通系ICカードの導入等が挙げられます。

128ページをお願いいたします。

4) 観光との連携強化を図る事業として、公共交通と観光振興の連携強化を図るため、取り組む事業を挙げております。

事業3-10 観光振興にかかるPRは、観光において公共交通を利用してもらうため関連した事業を実施するものであり、観光モデルルートの設定及びPR活動の実施等が挙げられます。

事業3-11 観光施設との連携は、観光施設及び公共交通の利用促進のため観光施設と連携し割引制度を導入するものであり、観光施設の割引制度の実施が挙げられます。

129ページをお願いいたします。(4)〈施策4〉持続可能な交通サービスの提供でございます。

①基本的な考え方として、路線の役割に応じた交通サービスが提供できているのかについて検証するとともに、経済的な視点から、福祉施策などほかの施策と費用対効果等のさまざまな角度で比較・検証しながら、安定的・持続的なサービス提供をするための仕組みを構築します。その仕組みに基づき、持続可能な交通サービスの提供を目指します。

②実施する事業としまして、基本的な考え方に基づき、〈施策4〉持続可能な交通サービスの提

供に向けて取り組む事業を挙げております。

事業４－１公共交通ネットワークの見直しの仕組みの構築は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）、都市間連絡軸（高速バス）、タクシーに該当する全路線において、持続可能な交通サービスの提供のため、基本的な考え方にに基づき、公共交通ネットワークの評価・検証及び対応策を検討し、実施する仕組みを構築するものであります。なお、具体的な仕組みにつきましては、次回の会議の際にご審議いただく予定でございます。

事業４－２運賃体系のあり方の検討は、南北鉄道軸、東西公共交通軸（バス）、都市間連絡軸（バス）、生活交通軸（バス）、都市間連絡軸（高速バス）、タクシーに該当する全路線において、市民や利用者のニーズや交通事業者との協議を踏まえ、経済的に維持が可能で、安定的・持続的なサービス提供が可能となる運賃体系を検討するものでございます。

事業４－３新たな収入源の確保は、持続可能な交通サービスの提供のため企業広告等により財源を確保するものであり、電車、バスの車体や駅、バス停、公共交通マップ等を活用した企業広告の実施が挙げられます。

１３１ページをお願いいたします。

先ほどの事業４－２運賃体系のあり方の検討の参考資料として、周辺市町のコミュニティバスの運賃体系を掲載しております。

次に、１３２ページから１３６ページにおいて、本計画における将来像、基本方針、目標、施策、事業、評価指標、課題の関係性について整理した表を記載してございます。

構成といたしましては、各目標の達成に向け表中の丸がついた事業を実施し各将来像を実現させることで、下の枠内にごございます課題の解決を図るものになっております。なお、１３６ページの表につきましては、四つの将来像の表をまとめたものになりますので、こちらもあわせてご確認をお願いいたします。

次に、１３７ページをお願いいたします。２．拠点別の将来像でございます。

小牧市都市計画マスタープランにおいては、下の図のように中心拠点、地域拠点を中心に日常生活圏が形成されているものと想定し、本市を四つの地域に区分しております。ここでは、先ほどの四つの施策を踏まえ、拠点別に事業を整理し、今後目指すべき将来像を整理いたします。

１３８ページをお願いいたします。

①中心拠点（小牧駅周辺から市役所・小牧山周辺の一帯）は、小牧市都市計画マスタープランにおいて「～小牧の玄関にふさわしい魅力を備え、豊かで快適な暮らしのできるまち～」が地域のまちづくりの目標として定められております。この目標を踏まえながら、以下に示す１０の事業を実施いたします。なお、１３９ページに中心拠点の事業展開のイメージを示しておりますので、あわせてご確認をお願いいたします。

１４０ページをお願いいたします。

②地域拠点（味岡駅周辺）については、「～安全で快適な生活利便性の向上と魅力と誇りを持ち続けることができるまち～」が地域のまちづくりの目標として定められております。この目標を踏まえながら、以下に示す九つの事業を実施いたします。なお、１４１ページに地域拠点（味岡駅周辺）の事業展開のイメージを示しておりますので、あわせてご確認ください。

１４２ページをお願いいたします。

③地域拠点（桃花台センター地区）は、「～都市と自然が共生し、豊かなコミュニティと新たな活力を育むまち～」が地域のまちづくりの目標として定められております。この目標を踏まえなが

ら、以下に示す四つ事業を実施いたします。なお、143ページに地域拠点（桃花台センター地区）の事業展開のイメージを示しておりますので、あわせてご確認ください。

144ページをお願いいたします。

④地域拠点（藤島地区）は、「～快適に移動できる交通環境や活力基盤が整い、ふれあいを育むとともに安全で暮らしやすいまち～」が地域のまちづくりの目標として定められております。この目標を踏まえながら、以下に示す四つの事業を実施いたします。なお、145ページに地域拠点（藤島地区）の事業展開のイメージを示しておりますので、あわせてご確認ください。

資料の説明は以上となりますが、本日ご審議いただいた結果を踏まえ、次回の会議で各事業の実施主体とスケジュールを設定するとともに、実施事業を踏まえた目標値の設定を行います。さらに、当計画の評価や個別事業の評価について記載する計画の達成状況の評価についても検討してまいります。

なお、今月25日に本会議に先立ちまして市の横断的な検討を行う小牧市地域公共交通網形成計画策定部会を開催し、その会議において、どの事業をどのタイミングで実施するかがわかりづらい、事業の内容について断定的な記載がされているが、5年の計画期間の中で実施していくのかといったご意見をいただきました。

掲載しております事業につきましては、地域懇談会等において市民の方々からの要望が多かったものですか、課題を解決するために実施していくものでございますので、中には5年で事業を完了することが難しいと思われるものもございますが、事業完了に向けて動き出していく必要があるため、そういった事業につきましても当計画に記載しておるものでございます。そのため、策定部会や本日の会議でのご意見を踏まえ文言等については再度検討させていただき、次回この会議に諮りたいと考えております。

以上、議題「(3)小牧市地域公共交通網形成計画策定状況について、計画の目標について、目標を達成するために行う事業について」の説明とさせていただきます。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

【磯部会長】

ありがとうございます。

ただいま事務局から、資料2に基づいてご説明いただきました。

この件につきまして、皆様からご意見、ご質問がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

【岡田委員】

一つ、全体的な流れというか計画の位置づけということの再度の確認をさせていただきたいと思っております。

108ページにあります(2)計画期間というところに、この交通網形成計画は都市計画マスタープランや立地適正化計画との整合性を図りつつという内容になっております。国土交通省としては、交通網形成計画と立地適正化計画を車で例えると両輪という位置づけをしております。立地適正化計画も策定されていまして、それで今度網形成を作られるということは、非常にいいことであると。ここまでなかなか、愛知県内でも両方を作ってやっていくというところが非常に少ないということを紹介した上で、地域拠点、中心拠点という位置づけについて、一番わかりやすく記載され

ているのが137ページ、拠点別の将来像、これは都市マスタープランに位置づけているということではありますけど、再度確認したいのは、立地適正化計画でも恐らく居住地域云々というものを踏まえて、この拠点、非常に重要なことになると思いますが、そこを立地適正化計画にも定めて一緒になってやっていくということの確認をお願い、どういう状況かということも教えていただければと思います。

【磯部会長】

ありがとうございます。

初めての方は分かりにくいかもしれませんが、立地適正化計画が都市計画部局として別途作業しているということでありまして。今回の資料でいいますと「拠点」という言葉がありますけれども、そういうものも明確に決めていこうというのは、そういったところで検討されているということだと思いますので、何か関連してあるんじゃないかなというのが岡田委員から出てきました。

事務局から何か説明できますでしょうか。

【事務局】（松浦係長）

小牧市では昨年度、小牧市都市計画マスタープランの中間見直しを実施しております。また、小牧市立地適正化計画につきましても昨年度策定したところがございます。立地適正化計画につきましては5年ごとに評価の見直しをしていくということをお聞きしておりますので、それと呼応して、小牧市地域公共交通網形成計画につきましても5年計画とさせていただきます、見直しをしていきたいと考えているところでございます。

立地適正化計画の中身につきましては、担当係長から説明させていただきます。

【事務局】（大澤係長）

都市政策課計画係長の大澤でございます。先ほどお話のありました立地適正化計画の所管をさせていただきます。

立地適正化計画につきましては、平成27年度及び28年度の2カ年をかけ策定し、昨年度末、平成29年3月31日から運用している計画でございます。

委員の方からご指摘のございました都市計画マスタープランの中心拠点、地域拠点との立地適正化計画の関連でございますが、都市計画マスタープランの中心拠点や地域拠点を、いわゆる立地適正化計画でいうところの居住誘導区域、これは将来的に居住を誘導していこうという区域になりますが、そちらの設定でありますとか、都市機能誘導区域といった、都市機能の集約化を図っていこうという区域を設定するに当たりまして、資料の137ページにございます各拠点の位置を考慮して定めているところでございます。

立地適正化計画におきましても、こういった拠点という考え方は今説明したとお持ちしておりますが、資料でいうところの119ページの下段に都市の骨格構造というものを載せております。立地適正化計画では、先ほど申しました各区域を設定することもございますが、この都市の骨格構造も基本的な考え方として設定しているところでございます。

立地適正化計画については、簡単でございますが、以上となります。

【磯部会長】

ありがとうございます。

岡田委員、よろしいでしょうか。

【岡田委員】

ありがとうございました。

【磯部会長】

先行して、そういう街の形の理想的なものを考えられているということで、そこから今回の中心拠点とか地域拠点というものも出てきているということで、今度は交通のほうでそれを充実させてつないでいこうといった流れになっているということでございます。

ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

【小柳委員】

南北の鉄道軸、重要なものとして名鉄小牧線がございまして。これは118ページにも事業内容が謳われておりますけれども、僕たち公共交通利用促進協議会という組織の中で、実は名鉄小牧線の利便性を更に上げるために毎年要望活動を関係機関に展開させていただいております。そんな関係で、ここに書かれていることについては異論はないですが、これだけのものができれば素晴らしいなと思うんですけれども、実際にそういう活動をし、直接要望活動する中では、なかなか難しさがあるなと。5年や10年でとてもできるような問題ではないような気がする部分もあります。

例えば、平安通駅から以南に延伸を働きかけることは、継続的にするということはあっても、実現については非常に難しい面があると。従って、私どもとしては、利便性を向上する中で、しかも利用率を上げていく、そういうものを強烈にやらないと、なかなか南北軸といっても、ここに書かれているような内容をそのまま、気持ちとしては分かるんだけど、実際に実現ということになると、かなり厳しさがあるのかなと思っておるものでございます。

関連して申し上げますと、実は公共交通利用促進協議会としても総会をやりまして、名鉄小牧線は周辺の整備も含めて随分利用者が増加をして、大変重要な線であるだけにたくさんの方が利用してくださるということは嬉しく思っておりますが、この資料にも、利用する人たちのかなりの人が例えば自転車で駅を利用して乗り換えていくということがあります。小牧の場合には間内駅から田県神社前駅まで、随分自転車の利用率が高くなっています。それは名鉄小牧線が便利になったから、さらに利用するために遠方から自転車で来るということもあってのことだと思いますが、これも資料の中には、一宮市さんのほうでは駅前の駐輪場を有料でやられているということですが、小牧の場合は無償で現在整備されたところに置いている。あるいは、さらには整備された駐輪場以外にも置かざるを得ない実態がございまして、これも少し問題になりかかっておる。

先日私、この中で質問があったものですから現地を確認しました。小牧の中心拠点になる小牧駅では放置自転車が南に26、北に30何台の計61台かな、そのぐらい放置自転車があるということで、利用者を増やすことについても、附帯する問題としてはかなりあるのではないかと感じとして思っておりますので、何かお答えいただける点があったらいただきたいと思っております。

【磯部会長】

ありがとうございます。

名鉄小牧線の平安通より南は名古屋市の地下鉄の計画上消えたわけじゃないと、けど中々実現が難しいねと関係者の皆さんは思っているところですけども、一応計画上あるところをどうやって小牧としてはそれを考えていくかと、行政機関としてどうやって考えていくかという、その辺のことでのご質問だと思います。

あとは、鉄道へ向かうお客様の中には自転車利用も多くなってきて、自転車の停め方の問題がいろいろと話題になっているようでございますから、126ページにも、駅前広場、駐車場、自転車等駐車場の整備というのがあったりしますので、その辺も含めてのご質問だと思いますので、お答えできればお願いいたします。

【事務局】(松浦係長)

118ページの事業1-5名鉄小牧線の利便性向上に書かれている内容につきましては、小柳委員の言われるとおり、名鉄小牧線全線複線化、小牧駅以北の増便、高架化事業の推進等につきましては、かなりハードルの高い事業ということは十分認識しているところでございます。小牧市におきましても犬山市と春日井市と連携して期成同盟会を立ち上げて、こちらの要望活動等、働きかけをしているところでございます。

また、小柳委員が会長になっております公共交通利用促進協議会におきましても、名鉄小牧線全線複線化と名古屋市営地下鉄の平安通駅以南の延伸につきましては要望活動を実施しているところでございますので、そちらにつきましてはこちらの計画に位置づけて今後も力強くやっていきたいと、名鉄小牧線の利用を増やしていきたいということで、そちらにかかわる事業としましては、126ページに記載させていただいているところでございますが、事業3-7鉄道駅のバリアフリー化ということで、今年度につきましては小牧原駅をバリアフリー化する予定で、来年度には小牧口駅を実施する予定でございます。

また、事業3-8駅前広場及び自転車等駐車場の整備ということで、こちらも小牧口駅のところを、駅前広場、また自転車等駐車場の整備を予定しているところでございます。鉄道の利便性向上を図ることによりまして利用者を増やすことによりまして、先ほども申しました全線複線化とか平安通駅以南の延伸の事業に繋げるようにしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

【磯部会長】

よろしいでしょうか。

いろんな事情があって、一応頑張って推進と言っている立場上、簡単には手を降ろせないということらしいです。

【小柳委員】

僕は反対するというつもりで申し上げているんじゃないかと、できるだけ実現することを考えながら申し上げているつもりですけども。毎年要望書を提出しますが、それは小牧市の政策と呼応しての要望ですので、ここに書かれておりますように平安通以南の延伸という言葉で含めることはちょっと難しいなど、運動としては思っているんです。

到底できないものかというように思っていないんですけども、まだまだ名鉄小牧線の全線複線化や

小牧駅以北の増便とか高架化の事業をもっと推し進めていただきたいという活動をこれからはしていかなきゃいけないと思っているんですが、平安通駅以南にということは含めにくいのではないかと思いましたが、これに書いていただいてもいいんですけども、僕たちの運動としてはなかなかそこまで行き着かないのではないかなという思いがありましたので申し上げた次第でございます。

【磯部会長】

今日の資料の108ページで20年後の姿というのと、また短期で5年というのと、5年、20年というのが108ページに書いてあります。先ほどの平安通駅以南の話が20年の中に収まってくるのか、それを超えるのかというのが今としては何とも言えないんですけども、20年を超えるかもしれないけれどもやっていくようなという書きぶりが必要かもしれないという話ですね。あくまでも20年後の姿というので考えているというときに、ちょっと達成が難しいのをあえて残していくと計画全体が達成できないということにもなりかねないので、その辺も危惧されているのかなというのがありますので、20年後の姿といったときにどの辺まで文言として入れて、それを超えるとはっきり書きちゃいけないんですけども、超えるかもしれないというプロジェクトでもきちんと作業していくというような、そんなような書き方を工夫されたらどうかなと思いますけれども、事務局いかがでしょうか。

【事務局】（松浦係長）

平安通駅以南の延伸につきましては、運輸局の答申の中ではAランクに位置づけられている事業ではございますが、現在名古屋市ではそちらの事業は凍結している状況でございます。かなりハードルが高いということは事実でございます。そういった実情や小柳委員から言われましたご意見も踏まえまして、文言等につきましては再度検討させていただきまして、また次回の会議に諮りたいと考えております。

以上でございます。

【磯部会長】

ありがとうございます。
ほかいかがでしょうか。

【松浦委員】

あおい交通の松浦です。

全体的には賛同いたしますけれども、20年後の都市の姿を展望しつつあるので。

今、愛知県も自動運転というのを取り組まれている。そうすると、10年後ぐらいは、桃花台地区とかある程度の地区の中で、公共交通に関して自動運転に対する視点を持っておられるかなということをおもいました。

【磯部会長】

ありがとうございます。

新しい技術が意外と早く完成して導入されるんじゃないか。一部地域というか、条件の整ったと

ころという条件つきかもしれませんが。それだったら、もっとこの小牧市でも活用したらいいんじゃないですかという積極的なご意見をいただきましたけれども、いかがでしょうか。

【事務局】（松浦係長）

自動運転につきましては、昨年度愛知県が実証実験ということで、県内の市町で実証実験をやったという実績がございます。今年度も愛知県が自動運転について実証実験をやられるということでございましたので、その実証実験の場として小牧市が手を挙げさせていただいて、小牧市がそちらの地域に選ばれるかどうかはまだ決まっていない状況でございますが。地域公共交通網形成計画につきましては、一応5年計画ということで5年後に見直しをしていく予定でございます。将来的に自動運転も、具体的にになった段階におきまして、こちらの計画に位置づけていきたいと考えております。

以上でございます。

【磯部会長】

要は乗り物の動かし方ということで、人が乗るのか自動運転になるのか、またガソリンなのか電気なのかとか、いろんな技術がありますから、技術の良いのを選んでいくというのはその時代時代です。やっていくということでありまして、大事なのはいろんな必要性、ニーズに応じていくという、その辺が計画の一番大事なところだと思います。そういう意味では、新しい技術とかいうのはその時々で常に導入していただければいいかなと思います。そういうのを含んで考えていくということで解釈していきたいと思っております。

ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

【岡田委員】

128ページの観光振興というところで、活性化再生法、交通網形成計画というのは公共交通と観光振興を連携してやれよという位置づけ、非常に重要なところであって、重要であるんですけどなかなか公共交通、生活路線というものの中でどこまでできるのかなというところが非常に重要な課題ではあるという認識はしておるんですけど。

その中で、公共交通を利用してもらうため関連した事業を実施するというので書いてあります、事業内容。それと関連して117ページに、事業1-2こまき巡回バスの平日用、土日祝日用ダイヤの設定ということで、今平日と土日も同じダイヤ、同じ本数が走っているということではあるんですけど、恐らく生活路線として土日は利用者が大分少ないということでもあります。ほかの市町におかれましては、コミバスを土日だけある程度観光ルート云々というものも検討してきている状況ではあります。

そこで、128ページの観光振興にかかるPRを実現するというのは、検討して難しい問題も多々あると思うんですけど、1-2の事業内容に観光振興とも連携という言葉、土日云々というものも入れてはどうかと感じたところですので、そこを提案させていただきたいと思っております。

【磯部会長】

117ページの事業1-2ですから、土日祝日ダイヤを設けることの理由の中に、特に市民とい

うよりも市外からの観光というのがあるんじゃないだろうかというご指摘でございます。いかがでしょうか。

【事務局】（松浦係長）

岡田委員の言われるとおりに、平日と土日では利用状況がかなり相違しているところがございます。人の移動が土日祝日と平日では違うと思いますので、そういったところも踏まえまして、文言の修正につきましては、また検討させていただきたいと思ひまして、次回またこちらの会議に諮りたいと考えております。

以上でございます。

【磯部会長】

では、よろしくお願ひいたします。

その辺のデータはそろっていますよね、平日と土日祝日は交通が違うという話はわかっていますよね。

ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

【近藤委員】

名鉄バスの近藤です。

120ページの事業2-1バス停の集約化の中で、いろいろ話を聞いている中では、小牧市民病院北というバス停がうちにはあるんですけども、それは今回の集約には絡まないのかなというご確認。

あと、さっきいろいろ駐輪場の話とかが出て、鉄道へのアクセスは自転車という発想も出てきたかと思うんですけども、だとすると109ページのいろいろな個別の目標値が、現況がそれぞれ、鉄道ですね、2-①なんか見ますと鉄道、バス、タクシーというそれぞれの目標が立つのかなと思うんですけども、こういう場合は一つにまとめても、個別で数値は要るかもしれないけど、目標自体は輸送モードをまたがず公共交通を利用するというような、まとめたほうが。施策によって路線バスが落ちていったりする可能性があるんで、そういうところはどのように評価していただけるのかなというのを。

【磯部会長】

名鉄バスさんからのご質問ですけども、いかがでしょうか。

【事務局】（松浦係長）

まず、一つ目の質問の、120ページの事業2-1の小牧市民病院のところの話でございますが、現在小牧市民病院が建て替えを実施しているところでございます、将来的には市民病院の南側にタクシー、バス専用のロータリーが造られる予定でございます。そちらのロータリーに名鉄バス、また、こまき巡回バス等を取り入れさせていただきたいと考えておひまして、そちらに該当する路線を掲載させていただいたところでございます。

もう一ついただきました109ページの評価指標、目標2-1-1の公共交通の利用頻度の増加

のところの評価指標が個別になっているということで、一つでもいいんじゃないかというところにつきましては、うちの内部でも検討を行いました。今後の評価指標の中で達成不達成が見えてくると思いますが、そういったところで、どの交通手段が不達成かというところを把握させていただいて、不達成の場合につきましては、また不達成な部分についての利用を上げてくる施策を打ち出せるのではないかと、こちらの指標を個別にさせていただいているところでございます。

どういった施策かというのは、今後また検討していきたいと考えております。

以上でございます。

【磯部会長】

多分2番目の質問は、目標値をどこかの時点でこの計画の中で立てますと。そうすると、やっていったときに目標値と見比べて、1年後か2年後か5年後かわかりませんが、そのときの値と見比べてときにどうなっているのかを比較していくという。必ずしもそれで合格とか不合格というわけじゃなくてということを使っていくという意味でよろしいですね。

と言いながら、路線バスも巡回バスもタクシーもいろんな絡みがございますし。要は2-1-1で挙げているような、公共交通を使うグループの方々と、むしろ自動車しか使わない方々との関係という、その数字が一番大きいのかなと思いますので、そういう数字の見方もぜひ入れてほしいなということだと思います。

多分そういう意味ですね。こんな細かいやつも、対マイカーオンリーの方の数字と比較していくという。

【近藤委員】

さっきの施策なんかを聞くと、量の多い少ないがあるかとは思いますが、自転車の利用を上げていきたいと思いますかという施策を打つに当たっては、多分この4項目の下に自転車という項目が出たら、自転車を上げつつ路線バスが下がっていくというイメージがあるのならば、それって目標値ってどういうふう設定されるの、だったら公共交通機関全体で自動車に対抗していくという指標になってもいいんじゃないかなと思っただけであります。

【磯部会長】

要は、自動車交通に偏り過ぎない環境に優しい交通体系の構築という話で、ここでは広域交通の利用頻度増加というので公共交通を使う割合を挙げていますけれども、この中で見比べるというよりも、もう一つは自動車を使っている方々の関係をいろいろ見ていく、自転車も入ってくるかもしれないけど。その辺の、いろんな乗り物の関係を見ていくほうがよろしいんじゃないかなと思いますので、その辺工夫していただけるといいかなと思います。そのほうが議論しやすいかなということですね、要は。そういうのもありますので。

ほかいかがでしょうか。

【小柳委員】

112ページですが、施策1から4までございますけれども、公共交通の利用促進は私どもの役目だと思っていますし、高齢化がさらに進みますと免許証の自主返納も呼びかけることにもなると

思いますので、そういうことから利用促進は進めていかなきゃならないと思います。

4番目が持続可能な交通サービスの提供ということになっております。持続可能ということになりますと、心配されるのが、113ページに近隣の市町との比較表がございますけれども、コミュニティバスの関係です。非常に利用率が高いのは、65歳以上の無償とされている人たちの利用がかなり増えてきているし、私も時々利用させていただくときは当然無償です。そんなことで、乗るときに非常にいいのかしらという思いが、同じように乗っておる人が、赤ちゃんを抱っこしたりおんぶしたりしながら200円払うところへ、私どものような者が無償で入ると非常に気まずいなという思いが正直言っております。けれども、政策的に65歳以上は無償だということにされておりますので甘んじて、ありがたいと思いつつ乗せていただいているんですが。

実際には、持続可能ということになると、比較表から見ても、かなり優遇されている措置を続けていかざるを得ないということになると思うんですが、その辺の見通しについて本当に大丈夫かと。地域で集会をやったときも、高齢者から出た言葉があると思うんですけれども、ワンコインぐらいで乗せていただければということがあったものですから、そういうものを少し背景に持ちつつ持続可能なということをお考えになっているかどうかということをお聞かせいただければと思います。

【磯部会長】

ありがとうございます。

高齢者の料金の問題ですね。

【事務局】（松浦係長）

こまき巡回バスの65歳以上無料化につきましては、高齢者の外出支援を促進するためと高齢者事故の減少などを目的に、今現在実施しているところでございますが、今後の料金体系のあり方につきましては、129ページの〈施策4〉持続可能な交通サービスの提供の事業4-2運賃体系のあり方の検討の中で、今後、こまき巡回バスの料金体系も含めまして検討していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

【磯部会長】

高齢者の方に手厚くやっているというお話がございますけれども、ある面では健康で長生きしていただければ健康保険の医療費が少なくなるんじゃないかという話もあるようで。そうじゃないと介護保険でいろいろとケアしたり病院でケアしたりというコストがかかっているようでございますので、健康でとにかく外出できるというのは財政上でもいい話じゃないかなという、そういう考え方もあると聞きましたので、いろいろと広い意味の政策でやっているというふうにお考えになればよろしいかなと思います。でも、狭い意味で見ると確かにそれだけ負担がかかっているのは事実でございますから、その辺の理屈づけですよね、本当にこれでいいのかという話があると思います。

あとは、いろんなところで、ここの街もそうかもしれませんけれども、ほかにもいろんな交通に対する補助とかがあったりすると、それとの整合性みたいなところが議論になっているのもありますし、事業4-2は幅広く考えていただければいいかなと思います。

あといかがでしょうか。

今日は全体の報告書の予定のページからいくと108から145ページまでの内容でございます。

すが、今日で内容が決まったわけではございませんので、またまた今日の議論を経て精査をしていくという作業がありますし、また前のほうから、全体を通すといろんなことが、直さないといけな
いところも見えてくると思います。

今日のこの議題（3）は、今日の資料の内容、計画の目標について、目標を達成するために行う
事業についての方向性、まとめている方向性についてご承認いただきたいということでございます。
決議に入りたいと思います。

今日の議題（3）小牧市地域公共交通網形成計画策定状況につきまして、今日二つの話題、計画
の目標についてと目標を達成するために行う事業についてを議論したわけでありましたが、この原案
の方向で進めることについてご異議ございませんでしょうか。

【全委員】

異議なし

【磯部会長】

ありがとうございます。異議なしの声が上がりました。それでは、この計画の目標について、目
標を達成するために行う事業については原案の方向で進めることとして承認されました。

先ほど事務局からありましたとおり、先日の策定部会、市役所の中の会議ですね、本日のこの会
議の意見を踏まえて、いろんな文言等とか調整されたものを次回の会議で再度諮るということでご
ざいますので、よろしく願いいたします。

本日の議題は以上であります。

皆様に慎重にご審議していただきまして、ありがとうございます。

続きまして、次第3その他に入ります。

事務局から何かありましたら、お願いいたします。

【事務局】（松浦係長）

それでは、次第3その他につきまして、事務局より1点ご連絡させていただきます。

次回の会議日程でございますが、次回の会議につきましては8月18日金曜日の午後2時より、
小牧市役所本庁舎6階の601会議室にて開催したいと考えております。

協議していただく内容につきましては、今回ご審議いただきました事業の実施主体と計画の達成
状況の評価などを予定しております。なお、詳細につきましては後日改めてご通知させていただきます
ますので、ご予約のほどよろしく願いいたします。

以上です。

【磯部会長】

ありがとうございました。

ご説明ありましたように次の会議は、まだ暑い時期ですけれども、8月18日午後2時に開催さ
せていただきます。皆様の参加をお願いしたいと思います。

皆様からそのほかでご発言はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回小牧市地域公共交通会議を閉会させていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。